



2026年6月10日掲載

金利上昇懸念とテクノロジー株調整

米国の主要な半導体関連銘柄で構成するフィラデルフィア半導体株指数(SOX)の下落を受けて、日経平均株価も調整しています。今回の動きは金利上昇懸念と報じられていますが、本質は企業収益のリスクに直面した市場心理の変化とみています。

6月5日発表の5月の米雇用統計が強かったことでインフレ継続が意識されましたが、賃金上昇率はむしろ低下しており、過度な利上げ懸念は行き過ぎと言えます。さらに、これまでほとんど気にしていなかったイラン情勢による原油高継続懸念も、いまさら市場心理を悪化させています。

半導体株が下落した直接のきっかけは、ある有名企業の売上見通しが、市場期待を下回ったことです。実績ではなく予想への失望で株価が下がるのは、典型的な心理変化による動きです。

これまで人工知能(AI)関連銘柄は、「競争激化」、「供給制約」、「負債増加」という3つのリスクを抱えながら上昇してきました。そのため、成長鈍化の小さな兆しにも敏感です。

金利上昇懸念で株価が下がることにも違和感があります。

成長株は本来、金利だけで説明できるものではなく、インフレ分だけ売上が伸びるはずと想定すべきです。それでも金利が材料視されるのは、市場心理が弱っているためでしょう。インフレによる金利上昇を恐れるのは、価格支配力が弱い企業だけです。

株式市場は高値警戒感や大型IPO(新規株式公開)など需給要因もあり、しばらく調整が続く可能性があります。AI需要という長期トレンドは変わっていません。ただし、高値を抜くには、企業の利益見通しへの信頼感が、改めて必要になります。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》